２００４年度秋学期　テクニカルライティング・第７回配布資料（２）　（担当・斎藤俊則）

1.トピックセンテンスと展開部

　日本は工業化社会から情報化社会に移り変わりつつある。かつて日本製が世界を席巻したカメラやテレビは、韓国・台湾などが主生産国になりつつある。自動車も同じ道をたどりかけている。やがて日本は、製品でなく技術（すなわち情報！）を生みだし、輸出することによって経済力を維持することになるだろう。

2.トピックセンテンスの位置のバリエーション

　かつて日本製が世界を席巻したカメラやテレビは、韓国・台湾などが主生産国になりつつある。自動車も同じ道をたどりかけている。やがて日本は、製品でなく技術（すなわち情報！）を生みだし、輸出することによって経済力を維持することになるだろう。日本は工業化社会から情報化社会に移り変わりつつあるのである。

　かつて日本製が世界を席巻したカメラやテレビは、韓国・台湾などが主生産国になりつつある。自動車も同じ道をたどりかけている。日本は工業化社会から情報化社会に移り変わりつつあるのだ。やがて日本は、製品でなく技術（すなわち情報！）を生みだし、輸出することによって経済力を維持することになるだろう。

上記の３つの例文は、木下是雄,『レポートの組み立て方』, ちくま学芸文庫, 1994, pp.181-184から抜粋

3.例題　以下の文章を適切なパラグラフに切り分けましょう

　慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（以下SFCと略）でテクニカルライティングの講座を担当し，指導を行った．本稿ではその教育実践の内容を報告する．SFCでは「汎用科目」としてテクニカルライティングの講座が開設されている．汎用科目とはSFCの学部生（総合政策学部，環境情報学部）が専門科目を学ぶ上で必要な知識や技能を身に付けるための科目であり，学年を問わず履修が可能である．半期完結の２単位の科目として，春学期，秋学期にそれぞれ１講座づつ開講されている．筆者は２００２年度より秋学期の講座を担当している．筆者は本講座を情報生産・情報発信の技術を学ぶための講座として捉えている．テクニカルライティングは技術者や理工系の学生のための作文技法という考え方もある．しかし筆者はより幅広く，学部生が専門分野を問わず身に付けるべき情報生産および情報発信の基本技術を，文書作成を題材に学ぶ講座としてカリキュラムを開発した．情報の観点を明確にしつつテクニカルライティングの指導を行った例としては君島による実践事例がある．筆者が初めて講座のシラバスを作成する際には，SFCにおける先任者でもある君島の講座のシラバスやテキストを参考にした．特に，一定の工程を経て情報を生産するという発想や，その考え方に沿ったカリキュラムの大筋については君島の事例を参考にした．しかし個々の指導内容については，実際に彼の講座を目にする機会もなかったため，その他の文献も参考にしつつ筆者自身が開発した．